

ダイアトーマス®の6つの特徴

日本古来からある「塗り壁」を、現代のライフスタイルに適応した素材となるように幾度となく改良を加え、健康を意識した製品へと進化しました。

01 | 湿度調整効果（抗カビ）

04 | 調温・省エネ効果

02 | ニオイの吸着分解

05 | 安心の耐久性

03 | 抗菌・抗ウイルス

06 | 優れた耐摩耗性

施工もメンテナンスも簡単！

01

健康・安全性

安全な素材だから、
人・ペット・植物にも安心です

- 室内環境こそ私たちの健康にとって一番大切な「起点」であることから、人・ペット・植物など、すべての生物にやさしい安心・安全な鉱物原料を使用しています。
- TVOC（総揮発性有機化合物）の試験においても優秀な結果を得ています。
- ホルムアルデヒドに関する検査結果でF☆☆☆☆を取得しています。

02

意匠性

全 40 色豊富な
カラーラインナップ！

- 全 40 色なので、どんなインテリアでも合わせられます。
- 塗り方次第で、パターンも自由自在。
- 手塗りの高級感は世界にひとつだけ。

03

メンテナンス

キズはタッチアップするだけ。
汚れは消しゴム
メラミンスポンジ等で！

- 汚れが気になる時は、消しゴム、メラミンスポンジ等でやさしく拭きとって下さい。
※力の入れすぎにご注意下さい。
- 輪ジミになることが少なく、キズがついたら綿棒などでタッチアップするだけで簡単に補修できます。
- 上からも重ね塗りができます。

※ ヨゴレ（シミ）は時間の経過によって取れ方は違います。
時間が経過するほど落ちにくくなります。

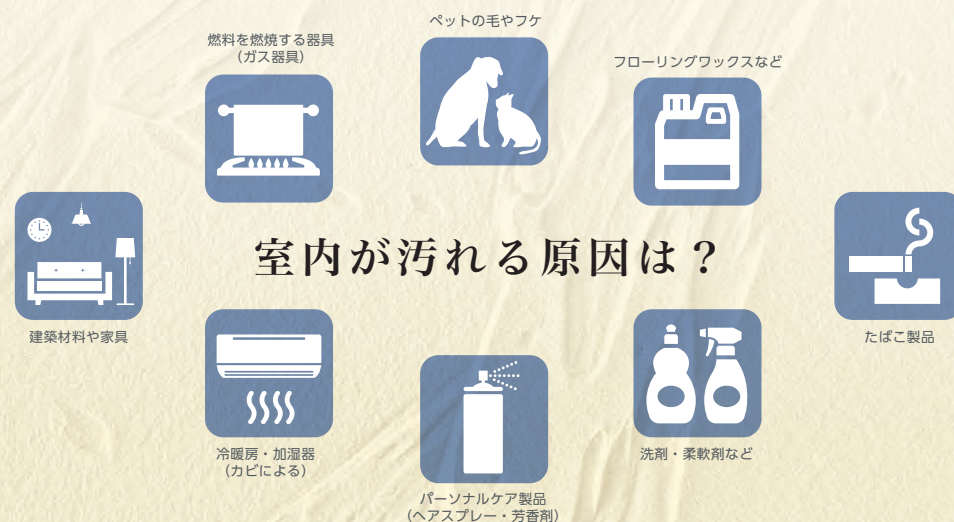


AirQuality の大切さをもっと知ろう！

私たちは、一日 13,000 リットルもの空気を吸って生きています。
空気がなければ人間は生きられません。
新たな時代に突入し日々換気を心がける今、その「空気の質」がさらに問われています。

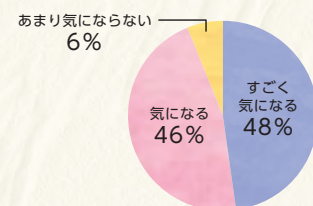
室内空気の汚れを直接目で見ることは出来ませんが、
状況によっては“ウッ！何かにおう！？”とニオイで感知することができます。
室内の空気は、私たちが思っている以上に汚れています。
それは多種多様な化学物質を使用した製品が室内の至る所に存在するからです。
またその空気汚染はペットから発生する可能性もあります。
そしてバクテリアやカビなど自然環境に由来するものもあります。
それらは徐々に室内の環境を悪化させ、場合によっては私たちの身体に深刻な影響を及ぼす可能性もあります。

何が原因でそれがどこにあるのか、室内空気汚染の原因がなにか特定が出来ると、
深刻で長期的な健康問題のリスクを軽減することができます。
そして少しでもそのような環境を改善するだけで
あなたとあなたの愛する家族は室内で安心した生活を送ることが出来ます。
ダイアトーマスはニオイで汚れた環境をキレイにします。

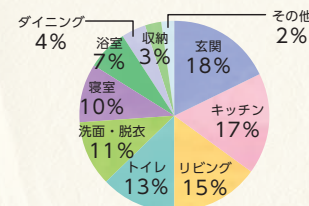


ニオイに対する意識調査 “やっぱりみんなそうだった!?”

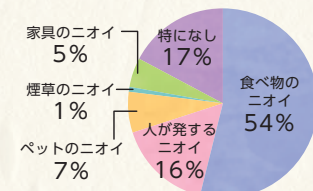
Q1 日常生活において、
ニオイが気になりますか？



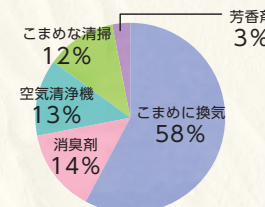
Q2 ニオイが気になるお部屋は
どこですか？



Q3 一番気になるニオイは何ですか？
3人家族（未就学児童含む）



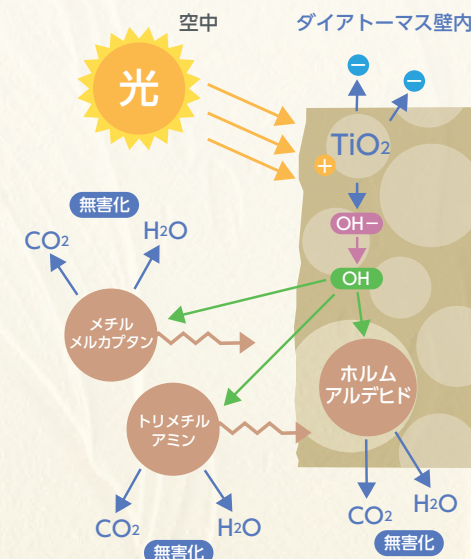
Q4 どのような対策を行っていますか？



(自社調べ)

ダイアトーマス® 驚異のニオイの吸着分解力!!

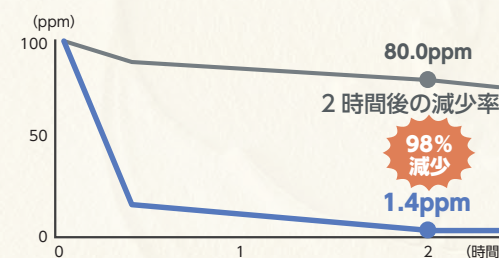
ダイアトーマスのニオイの吸着分解力が優れているのは
ダイアトーマスが持っている「多孔質」と「酸化チタン」
の相乗効果によるものです。
多孔質がニオイの粒子を捕え、
そしてそのニオイの粒子を酸化チタンが分解します。
この酸化チタンは私たちのまわりで
様々な製品に使用され、
多彩な機能で私たちの暮らしに役立っています。
そして強い分解力で、脱臭、抗菌、防汚等の
効果がもたらされています。
ダイアトーマスには品質が安定した
高純度の酸化チタンが使用されておりますので、
様々な価値ある効果が認められているのです。



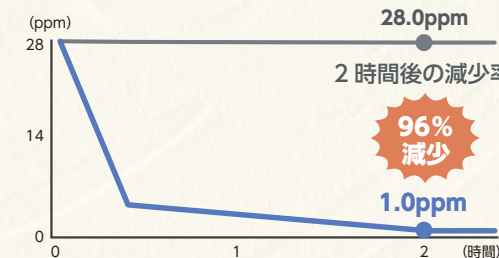
ニオイ除去性能評価試験の結果

— ダイアトーマス — ブランク

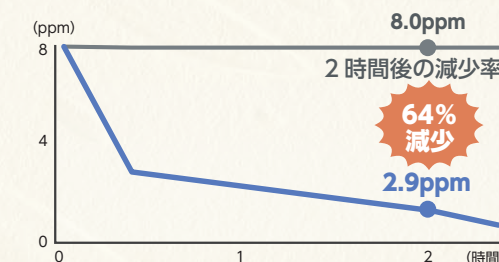
① アンモニア
(尿などのニオイ)
場所：トイレ



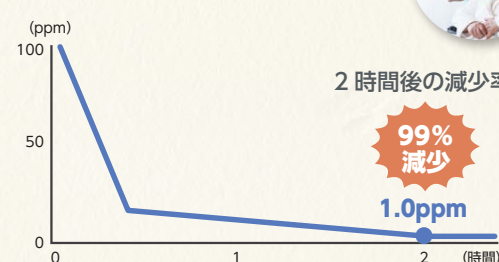
② トリメチルアミンガス
(腐った魚のようなニオイ)
場所：生ゴミ・キッチン・
レストランの厨房



③ メチルメルカプタンガス
(玉ねぎの腐ったようなニオイ)
場所：ペットショップ・動物病院・
ペットを飼っている住宅



④ イソ吉草酸ガス
(濡れた靴下のニオイ・加齢臭)
場所：介護現場・
フィットネススタジオ



(一般財団法人 カケンテストセンター調べ)